

# ◆ 第1章 ◆ 佐久水道企業団のあゆみ

佐久水道企業団は昭和30年に設立された佐久平上水道組合を前身としています。その組合の設立、水道の建設には幾多の苦難の歴史がありました。この章では企業団のあゆみについて紹介します。

## 1. 佐久平上水道組合の設立



図 2. 初代管理者井出幸吉翁胸像

戦後間もない昭和20年代後半に佐久地方に集団赤痢が発生しました。当時の佐久地方はほとんどが水質の悪い井戸の水を利用していたため、このことが原因であると考えた野沢保健所長の瀬下良一郎氏は、南佐久郡下の町村に水道建設を呼びかけました。

昭和29年、当時の南佐久郡下10箇町村が集まり、設立準備会が開かれ、水道建設が動き出しました。しかし、水源の確保に苦慮し、候補とした水源の確保のため再三の折衝を行いますが同意が得られませんでした。この状況を聞いた畑八村（現佐久穂町）の井出幸吉村長は、同村の大石水源と千ヶ日向水源を無償で提供することを申し出、翌昭和30年に県の許可を受けて正式に佐久平上水道組合が設立されました。

## 2. 佐久水道企業団の誕生

水道創設の認可を受けて、昭和32年から建設工事が始まり、33年に臼田町、34年に野沢町、中込町（現佐久市）に給水を開始し、35年10月には建設工事のしゅん工式が行われました。建設工事の完成と共に新たな加入や区域の拡張が行われ、浅科村が35年に加入し37年に給水を開始し、拡張工事が内山地区と湯原地区で行われ36年に給水を開始しました。

この頃佐久平地域には、当組合のほかに岩村田、御代田の両地区に給水する佐久市御代田町水道組合、佐久市東地区に佐久市東簡易水道がそれぞれありましたが、これら3つの水道を昭和41年に水道の広域化を目的として統合し、これが現在の企業団の基となりました。昭和41年の地方公営企業法の大幅改正により、昭和42年に佐

久水道企業団と名称が変更されました。

これまでの間、市町村や財産区で管理されていた簡易水道等が、水源の枯渇や施設の老朽化等により、次々と経営移管の申し込みがされ、地域への安定供給と広域化推進のため、簡易水道等の移管を随時受け入れてきました。

受け入れた簡易水道等は、簡易水道事業間の統合や上水道への統合を行い、整備を進めてきました。平成19年度には、佐久市で経営していた望月上水道、布施簡易水道並びに長者原簡易水道と、佐久市望月外1市水道企業団で経営していた簡易水道を、平成21年度には、佐久穂町で経営していた館向原簡易水道、本郷針の木沢簡易水道、影新田簡易水道、東地区簡易水道を合併しました。

現在では、上水道1事業、簡易水道11事業、専用水道1事業の経営を行っており、佐久市、東御市、御代田町、佐久穂町の約12万人に給水する水道となりました。

～ 年 表 ～

昭和30年 佐久平上水道組合設立	昭和58年 田口配水池、浅科配水池が完成
昭和32年 建設工事着工 佐口に給水開始	小田切簡易水道、久能簡易水道、 常和簡易水道、高岩天神町簡易水道が合併
昭和33年 臼田町に給水開始	昭和59年 管理センター起工式
昭和34年 野沢町、中込町に給水開始	昭和60年 豊昇簡易水道、草越広戸簡易水道 が合併佐久市跡部に管理センター が竣工し事務所を移転する。
昭和35年 建設工事竣工	昭和61年 管理センター竣工式、創立30周年 記念式典
昭和37年 浅科村に給水開始	昭和63年 下海瀬簡易水道を合併
昭和39年 川東バイパス管布設工事着工	平成 3年 西山簡易水道を合併
昭和40年 青沼地区に給水を開始	平成 6年 矢島簡易水道を合併
昭和41年 佐久平上水道組合、佐久市御代田 町水道組合、佐久市東簡易水道と の合併を行う。	平成 8年 創立40周年記念式典
昭和42年 佐久水道企業団と改称 川東バイパス管布設工事竣工	平成 9年 大沢前山簡易水道外7簡易水道を 上水道に統合
昭和43年 八千穂村から佐久市原に事務所移 転、広域水道完成記念式典を行う。	平成10年 日向簡易水道を上水道に統合
昭和45年 田口上水道、丸山簡易水道を合併	平成11年 内山簡易水道を上水道に統合
昭和48年 穴原簡易水道、崎田簡易水道、花 岡簡易水道、駒寄簡易水道を合併	平成13年 八郡簡易水道を合併 佐久市沓沢地区に給水開始
昭和49年 面替簡易水道合併	平成14年 小田切湯原簡易水道を上水道に統 合
昭和50年 創立20周年記念式典	平成17年 企業団創立50周年記念式典
昭和52年 大沢簡易水道、大沢新田簡易水道 を合併 佐久市内山の黒田、大月地 区に給水を開始	平成19年 望月上水道、布施簡易水道、長者 原簡易水道、望月北御牧簡易水道 を合併 企業団の組織市町に東御市が加わ る
昭和53年 小宮山簡易水道、前山南簡易水道、 前山北中簡易水道を合併 平賀城 配水池完成	平成21年 館向原簡易水道、本郷針の木沢簡 易水道、影新田簡易水道、東地区 簡易水道を合併
昭和56年 平尾配水池、北部地区の幹線工事 が竣工	
昭和57年 台風18号により施設に被害 大石川土石流が発生	

出典：2005年(平成17年)2月15日発行 佐久水道新聞第82号(一部加筆)

## ～水道設立当初の水道に関する作文～

水道

八千穂北小学校六ノ一

佐々木 松子

「ジャージャー」といきおいよく出て食事のしたくの手つだいをしてくれる水道。この水道は昭和二十九年に出来た。では、その二十九年に帰って見よう。

イ、水道が出来るまで

そのころ下畑に「水道が引かれるぞうだ。」そんな言葉などが伝わった。そしてこの家でもたくさんの苦労をかさねて井戸から水をくみ出していた。お風呂を立てるにも、バケツでいくどもゆぶねえ運び、そしてもうそれだけでくたびれてしまい、ふろへ入る力なども失なってしまう。又食事の用意をするにもいちいち井戸からつるべくみ出して運んだ、だからそんな時は人手がいるのでどんな小さな子供でも手伝った。そしてもうその朝夕の水くみが一つの仕事になっていた。こんな時の目の回るような感じがしはこれだ。もうまでもなく、みなさんは知っていると。そしてこんな時、水道があったらとすぐそう思った。どこの家でも夕食のあとなどその苦労を語り合ったので水道のゆめだ

けでもうれしかった。

その事がほんとうに始まったのだ、それから一週間ぐらい立ってから下畑にも道路をこわし、そして水道を引く作業などが、おこなわれた。そして上の方から順にやって来る。私の家まで来た。そのころ私は学校へ出るまえなのでまだはつきりわかっていない。なにしろいんしょうにのこるのは、母と道え出た時、石とつるはしがあたる音で耳がさばけそうだったことなどだ。その音もしだいに遠くなっていく、しまいには村中の男の人まで出て来て仕事をした。そしてこの村にも苦心のかがいあってやっと水道が生まれたのだ。

ロ、水道とは

昭和二十九年に水道がかんせいした。今まで井戸の水だけしか通らなかつた、私の家の流しも村中の人達のおかげで水道の水が通れるようになった、そしてつるべも使わなくて良くなったのだ。水道が早く出来るようにと考えなくてよくなった、ただジャロをひとひねりひねれば「ジャー」といきおい良く水が出るようになった。つるべで水をくむ苦労とはかえられない、それにちゃんと消毒してある水なの

でえいせい上一級だ、なんの心配もなく安心して使える。井戸水でたてたふろと水道の水でたてたふろでは同じ水でも井戸水は家の人々の苦労であり水道の水はもっと広いはんいの八千穂村の人のありがたみがこもっている。そして食事の時、手を洗うのもおっくうでない。

ハ、メートルになって

八千穂の水はもっと、もっとはいいを広くして行くために水が足りないという。そして水をむだに使わないように買って使うという。私ははじめのうち「メートルで買って使うなんてやだなあ。」という気持ちがあった。でも今の便利さを考えていると外でまだ井戸水を苦労して使ってる人々を思うとかわいそうだ。それに村の人々がこんな苦労して通してくれた水だもの、だから近所の人、いや、村中の人達と協力してもっともけんやくして多ぜいの人に水道を使はせてやりたい。私達の村だけが水道を使って他の村だけ水道でないなんて不公平だ、だから多くの人に喜ばしてやりたい。

出典 第5号 佐久水道新聞

(昭和三十六年七月二十九日)

水道週間募集作文より